

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イグサシンムシガの越冬調査結果（技術情報第 1 号）について（送付）  
3 月に実施したイグサシンムシガ越冬調査の結果、越冬世代密度がやや高い傾向が認められます。下記のとおり取りまとめた結果を参考に、防除指導をお願いします。

記

1 調査結果の概要

越冬世代の発生量 平年比やや多  
越冬世代成虫の発蛾最盛期 平年比やや遅い

- (1) 蛹及び幼虫密度は、4.9 頭/10 m<sup>2</sup>(平年 2.5 頭/10 m<sup>2</sup>)と平年比やや多の発生であった。なお、越冬世代密度は漸増しており、一部に密度の高いほ場も認められることから、ほ場内の発生に注意し、越冬成虫を対象とした防除を実施する(表 2、図 1)
- (2) 蛹化が確認された八代地域の越冬世代成虫の発蛾最盛期は、平年(4 月 16 日)よりやや遅い 4 月 21 日と予測された。宇城市、球磨地域では、平年より成育が遅れ、蛹を確認できなかった(平年の蛹化率：宇城市 13.7%、球磨地域 7.8%)。したがって、両地域における越冬世代成虫の発蛾最盛期(平年値：宇城市 4 月 12 日、球磨地域 4 月 18 日)も八代地域と同様にやや遅いと考えられる(表 1)

2 防除対策

- (1) 4 月の第 1 世代幼虫の防除を徹底することで、「長イ」を加害する第 2 世代幼虫の発生を抑える。
- (2) 防除適期は、粒剤が発蛾最盛日、液剤及び粉剤が発蛾最盛日から 7 日後である。なお、気温が低くなると羽化がばらつくので、発蛾最盛日から 7 日間隔で 2～3 回の防除を行う。
- (3) 予測される発蛾最盛日は、今後の気温により変動し、地域によるばらつきもあるので、ほ場をよく観察するとともに、予察灯への飛来状況に注意して防除時期を判断する。

※今後の病害虫の発生状況（イグサシンムシガの予察灯データを含む）については、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto>）を御参照ください。

表 1 越冬世代の蛹化率および発蛾最盛期

	八代地域		宇城地域		球磨地域	
	蛹化率	発蛾最盛期	蛹化率	発蛾最盛期	蛹化率	発蛾最盛期
本年	3.0	4 月 21 日	0.0	—	0.0	—
昨年	15.9	4 月 18 日	0.0	—	0.0	—
平年	22.7	4 月 16 日	13.7	4 月 12 日	7.8	4 月 18 日

注) 発蛾最盛期：50%蛹化率+16.7 日(蛹期間の平均気温が 18℃の場合)  
50%蛹化日：(50%－調査日の蛹化率)÷蛹化の増加率+調査日－31 日  
蛹化の増加率：5%(1 日平均)

表2 イグサシシムシガ越冬調査結果

No.	市町村名	地点名	調査株数	被害茎数	幼虫数	蛹数	茎数/株
1	八代市	両出	100	3	0	0	21
2		昭和	100	6	2	0	25
3		北新地	100	1	1	0	33
4		野崎	100	1	1	0	34
5		平和	100	7	3	0	89
6		鼠蔵	100	3	2	0	51
7		催合	100	4	3	0	33
8		日奈久	100	2	1	0	40
9		郡築4	100	7	5	0	50
10		郡築2	100	3	0	0	82
11		松高	100	2	1	0	86
12		八千把	100	3	3	0	52
13	八代市 (旧鏡町)	芝口	100	1	1	0	43
14		北出	100	2	0	0	46
15		中島	100	0	0	0	37
16	八代市 (旧千丁町)	鏡	100	1	0	0	42
17		古閑出	100	2	2	0	36
18		新牟田	100	2	1	1	48
19		太田郷	100	9	4	0	66
20	吉王丸	100	6	3	0	36	
21	氷川町 (旧竜北町)	若洲	100	1	0	0	56
22		西網道	100	1	0	0	57
23		島地	100	2	2	0	50
24	宇城市	新田	100	1	1	0	49
25		松橋町浅川	100	2	1	0	48
26		小川上住吉	100	0	0	0	40
27	小川三軒屋	100	2	2	0	39	
28	あさぎり町	岡原南	100	5	4	0	25
29		岡原北	100	11	7	0	45
30		免田	100	5	2	0	57
計			3000	95	52	1	47

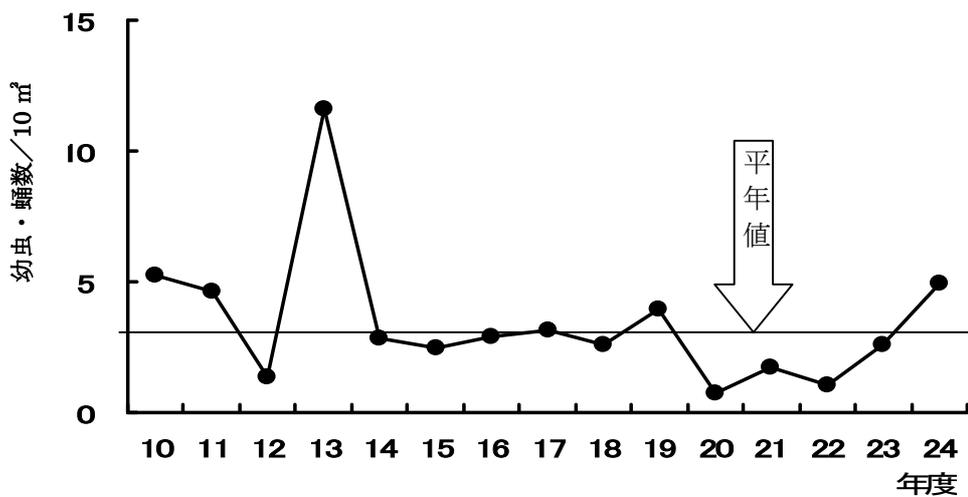


図1 越冬世代幼虫・蛹密度の年次推移

注)平年は過去10年間の平均

問い合わせ先 熊本県病害虫防除所(生産環境研究所)  
 担当:加賀山、山口  
 TEL:096-248-6490